

とやまファン  
倶楽部

No.20

2006

CONTENTS

リレーエッセイ 19 / ねじめ 正一	2P
第11回とやまファン倶楽部会員交流会	3P
とやま賞	4P
とやまの人づくり事業紹介	5P
会員交流広場	6P
INFORMATION	7P

## 富山あれこれ

### ねじめ 正一さん



#### プロフィール

ねじめ正一(ねじめしょういち) 作家・詩人  
1948年、東京高円寺生まれ。昭和56年、処女詩集「ふ」で詩壇の芥川賞と呼ばれる「H氏賞」を受賞。平成元年、初めて手がけた小説「高円寺純情商店街」で101回高木賞受賞。平成16年、「まいごのこどり」で第15回ひろすけ童話賞を受賞。スポーツは野球好きで、長嶋茂雄さんに関する著書も多い。小説「雨宮突撃商店」「シーボルトの娘」絵本「ごうぎょうがぞく」「それとぶくくばん」。詩集「ひとりぼっち帰陣」絵本「さんぼうた」「わがままいもうと」小説では「聖地の恋」「商人」連作中。

富山県高岡に初めて訪ねていったときに、高岡で「大野屋」という和菓子屋を営む友人の大野さんに、氷見の寿司屋に連れて行ってもらった。寿司のネタの旨さに感動した。東京ではとてもお目にかかれない魚もいっぱいあった。とくに白身は格別であった。

翌日、東京に戻りパソコンに向かって仕事をし、一息を入れるために、テレビのスイッチを入れたら、女優のOとおしゃべりしながらどこかの街の中を歩いている。

この二人の女優は街を歩きながら美味しい寿司屋を探しているのだ。昨日、氷見で寿司を食べたばかりなので、気になる。しばらく見ていると、女優Oが「氷見って、いい町ねえ」と言った。えー氷見ー昨日の行った寿司屋かなーえーっとなんていう寿司屋だったかな。寿司屋の名前がなかなか浮かんでこない。二人の女優はお目当ての寿司屋を見つけて、店内に入ってしまった。私が昨日入っ

た寿司屋よりも間口も狭そうだ。店内も小さく見える。店主も昨日の店主よりも太っているように見えた。テレビの画面を何度見ても、昨晚大野さんに連れて行ってもらった寿司屋ではない。

二人の女優の寿司の食べっぷりは豪快で余程旨いのか寿司ネタでヒートアップしてきて、オーラが増してきている。大野さんがこの寿司屋に連れて行ってくれなかったことに腹が立ってきた。

テレビを見てから、三ヶ月ほどして、富山の市内での仕事の帰りに高岡に寄った。二人の女優が氷見にきて、美味しい寿司屋で食べていた話を延々大野さんに言う。大野さんは怪訝そうな顔をして、これからすぐに氷見に行こうと言いだしたのだ。

ありゃりゃ、氷見の寿司屋に行ってみて私の勘違いが判明した。実は女優二人の寿司屋と大野さんに初めていった寿司屋と同じだった。テレビ

の映像は照明によっても店内が違って見えるし、カメラの角度によっても全然別の店に見えたのだ。これで忘れていた氷見の寿司屋「鮎よし」という屋号が私の頭の中に深く刻み込まれた。

そして、富山は寿司だけではなく、この三年、夏の時期になると、子ども達に詩の授業をしている。2-3時間の詩作を中心の授業をしているのだが、毎年、子ども達の個性が違って、たまにしか子ども達と接することのできない私には新鮮である。この詩の授業は、初めは親の方が詩を学ばせてやりたいと思って、申し込んだはずが、親からどんどん離れて、子ども達が詩という言葉の凝縮された表現に興味を持ってくるのがはつきりわかる。授業は言葉遊びからはじめめるのだが、私が想像もつかない言葉遊びをする子どもがいる。うあ！この子はすごいなあと思っ

ぽんでいて、元気がなくなると、他の子どものほうが言葉がどんどん面白くなって、私は驚かされるばかりだ。まさしくライブである。動物園を回って、詩を書かせたり、川沿いに歩いたりして詩を書かせたりもした。

授業の最後の日には必ず「詩の格闘技」をやる。私がある場でテーマを与えて、即興で詩を作るのである。子ども達の拍手の大きさを勝ち負けを決めて、優勝者を選ぶのだ。子ども達はこの「詩の格闘技」がいちばん楽しそうな顔つきになる。即興で詩を作るのも大切であるが、即興で作った詩に集中して、耳を澄ますことも子どもには大切なことであることがよくわかった。毎年新しい子ども達の才能に出会って、教えるというよりはライバルが出現するというのが正直な気持ちである。富山の子ども達とことん付き合いたいと願っているねじめである。



# 第11回とやまファン倶楽部会員交流会

会員と富山県及び会員相互の情報交流の場である「とやまファン倶楽部会員交流会」が、7月20日(木)にホテルフロラシオン青山(東京)で約170名の会員の皆様の参加のもと盛大に開催されました。

11回目となる今回の交流会では、「と

やまふるさと使節」を代表して西村久仁子さん(高岡市出身フリー編集者)が活動状況を報告、また司会の水野節彦さん(NHKラジオ深夜便アンカー)が28名の新規会員の方々に「一言インタビュー」をするなど、終始和やかな雰囲気

を数多くいただきました。会場内は、富山の豊かな自然を背景とした「とやま夏期大学」紹介ビデオが放映され、また富山の新鮮な魚・地酒・名水のコーナーをはじめ、富山の食の魅力

## ■第11回会員交流会の様子



開会挨拶 ● 川田代表世話人



開会挨拶 ● 中沖理事長



開会挨拶 ● 石井知事



乾杯 ● 長勢内閣官房副長官  
(現 法務大臣)



「とやまふるさと使節」紹介  
● 西村久仁子さん



新規会員の皆様紹介



新規会員の皆様紹介



お礼の言葉 ● 米原県議会議長

## とやまのおもしろ情報や味覚を多彩に紹介!!



おいしい地酒紹介



産学官連携開発の新商品  
「からだよるコンプレッサーだよ。」



特産品紹介



県勢紹介





## ◆今年度の受賞者◆

## とやま賞



川口 善治氏  
富山大学附属病院 講師

学術研究部門(整形外科学)



松谷 裕二氏  
富山大学薬学部 助手

学術研究部門(薬品製造学)



田畑 真紀氏  
ダイイチ株式会社

スポーツ部門  
(スピードスケート)



竹谷 悦子氏  
筑波大学大学院人文社会科学部研究科 助教

学術研究部門(アメリカ力研究)



片山 芳則氏  
日本原子力研究開発機構 主任研究員

学術研究部門(物性物理学)

### 「とやま賞」とは

「とやま賞」は、富山県の開県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設されました。

受賞対象は、富山県出身者又は県内在住者で、学術研究、発明発見、芸術文化及びスポーツの分野において顕著な業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される個人又は団体の活動を奨励するものです。

今年度の贈呈式は、5月11日(木)に富山国際会議場メインホールで高校生や一般の方々約500名参加のなか行われ、学術研究部門で4名、スポーツ部門で1名、計5名の方々が受賞されました。

## 平成18年度 贈呈式及び記念講演

### ■贈呈式

- ◆あいさつ/理事長 中沖 豊
- ◆選考経過報告/選考委員長 金岡 祐一
- ◆「とやま賞」贈呈
- ◆祝辞/富山県知事 石井 隆一  
富山県議会議長 米原 蕃
- ◆各受賞者の言葉

### ■記念講演

- ◆講師 川島 隆太氏(東北大学教授)
- ◆演題 「脳科学から新産業を創生するー脳を知り、脳を鍛える」

川島先生は、最新の脳研究の成果について、認知症の改善例などを交えて紹介されました。さらに研究成果を福祉や教育の分野に還元する取り組みについて、また「脳を鍛える」ドリルやゲームは、家庭環境の改善やコミュニケーションのツールとしての活用をねらったものだという話など、興味深い内容満載の講演でした。終了後には、高校生からの勉強法についての質問をはじめ、会場からの多くの質問に明解に答えていただきました。





## 「夢の卵」 育成事業

この事業は、子どもたちにいろいろな可能性を秘めた夢を数多く持ってもらい、自分の将来を考えてもらうため、県内の小中学生に自分の将来の夢を書いた作文を募集し、優秀者を各分野の第一人者のもとに派遣するものです。

今年度応募のあった510作品の中から選考された、5名の子どもたちが夏休み中に短期入門しました。その概要を紹介いたします。

**夢の卵** いろいろな植物の  
新しい品種を作る研究をしたい

**入門者** 井上 穂乃芳 さん(高岡市立木津小学校6年)

**入門先** サントリー先進コア技術研究所  
京都府立植物園

### 入門内容

花や果物の皮に含まれている色素を抽出し、分析する実験や、植物のDNAを抽出する実験、植物の組織培養作業などに取り組みました。また、サントリーが開発した「青いバラ」を温室の外から見せてもらったり、植物園のたくさんの植物を見学したりしました。



**夢の卵** 子どもたちの心の傷も癒せる  
小児科医になりたい

**入門者** 竹内 岬子 さん  
(富山大学人間発達科学部附属中学校1年)

**入門先** 国立成育医療センター  
東京大学医学部附属病院

### 入門内容

たくさんの医療スタッフの方々に話を伺い、質問に答えてもらいました。国立成育医療センターでは、こころの診療部について詳しい話を伺ったほか、子どものためにいろいろな配慮がなされている施設・設備を見学しました。また、東京大学医学部附属病院では、NICU(新生児集中治療室)の保育器のしくみ等について詳しく説明していただきました。



**夢の卵** 富山湾に群生する  
オオグチボヤの研究をしたい

**入門者** 山田 育弘 さん(富山市立光陽小学校5年)

**入門先** (独)海洋研究開発機構  
新江ノ島水族館

### 入門内容

オオグチボヤの捕獲に挑む研究者の方から、オオグチボヤをはじめとする深海生物についての説明を聞きました。また、深海生物を調査する海洋調査船「なつしま」に乗船したり、ボールや菓子袋等に水深1kmの水圧がかかるとうなるかを調べる加圧実験をしたりしました。



**夢の卵** 耳の不自由な方の力になれる  
手話通訳士になりたい

**入門者** 沢井 風香 さん(富山市立光陽小学校5年)

**夢の卵** ボランティア活動の中心となる  
手話通訳士になりたい

**入門者** 前川 恵弓 さん(南砺市立井波中学校1年)

**入門先** 全国手話研修センター  
京都市聴覚言語障害センター

### 入門内容

手話研修センターは、全館に聴覚障害バリアフリー設備を備えた研修・宿泊施設で、実際に宿泊しました。入門では、手話の講習を受け、実際に簡単な自己紹介をしたり、いろいろな質問に答えてもらったりする中で、手話を身に付けていきました。また、京都市聴覚言語障害センター内の障害者授産施設「青空工房」で、ろう者の方々と一緒に作業をしながら、手話で交流しました。





# 会員交流広場

～皆様からのメッセージの一部紹介～

今年度の会員交流会(7月20日(木)開催)のご案内にあわせて皆様からいただきましたメッセージを、当財団のホームページ(<http://www.t-hito.or.jp/fan/set06.htm>)に掲載させていただいております。「富山県への助言」の一部をご紹介します。



多くの会員の皆様で賑わった会員交流会

智慧溢れる県として、日本を正しい方向へ牽引して欲しい。

観光にもっと力を入れる。(多くの人に来てもらう)学校体育にもっと力を入れる。(全国大会で富山県が上位に進出できるように)

何とんでも食べ物おいしい!富山でもぜひ「富山グルメ会議」などで、コンスタントに訪れる機会があると良いですね。それもせっかくの葉の町ですから、健康的なヘルシー志向で。

わが国土は「開発より保存」の時代に入ったと思います。いわゆる「都市と地方の格差」も、所得や物的水準を比べるのではなく、「足るを知る」の発想で人間同士の思いやりの心を重視する地域づくりが大切だと思います。

富山の美しい景観を享受できる場所の計画(景観ステーション構想)の策定と実現が必要です。

海洋深層水ミネラルウォーターを全国にPRし販売すること。将来は海外への輸出。

景色、物産、伝統、人情すべてに日本一を目指せ。

「観光富山」を世界へ向かってもっと発信を!!各国在京大使館への英文のカタログの発布等。

グラフィックデザイン学生の誘致計画。アジア・グラフィック学生のシンポジウム。

富山のPRをもっと東京で行うための「東京利用戦略」を立案したら。

人と人の出会いが大事。1+1は必ずしも2ではない。3にも4にもなり得る。ファン倶楽部が、そのような“きっかけ”になればと思うし、そうなってほしい。

云うまでもないことですが、全てに優先して、北陸新幹線富山開通の一刻も早い実現を願っております。

昔からの富山産品で優れたものが多いので、現代ライフにマッチする施策をもっと強力に進めたい。

文化レベルの高さの発信。源氏鶏太(直木賞)堀田善衛(芥川賞)の文学館、文芸館の設置で全国にPR。

新生富山大学に期待する。東京集中型でなく、地域にも魅力ある大学が必要だ。社会人講師も積極的に活用して、興味ある講義内容に努めてもらいたい。

日本人の心の健康を取り戻す拠点になって欲しい。

豊かな観光資源をもっとPRして欲しい。また、目玉となる商品やイベントの新規開発に注力されては如何か。

一人暮らしのお年寄りのための様々なネットワークづくり。

都市化に用心を!地政的に守られて来たものを大切にす施策を切に希望。

富山の名産物(特にお水)等を、もっと他の県にも宣伝してゆくと、良いのでは…。おいしいはずなのに、あまり知られていない…。もっと宣伝効果を高め、アピールすべきだと思います。

日本食は健康によいと世界から注目されています。美食のセンターをつくったらどうか。

富山の文化的伝統の厚味と、国際的芸術交流の現代性をブレンドして、産業文化とともに、日本と世界に発信しませんか。

海、山、みどりの豊かな自然を売り込んでいただきたい。富山産品、越中料理(各都市ごとの)をキャンペーンする。



## 富山県からのお知らせ

### 富山の魅力を発信するロゴマーク決定

このたび、県では、富山の地域イメージの発信・ブランド化を推進するため、ロゴマーク「<sup>CI</sup>くらしたい国、富山」を制作しました。

「自然と共にくらしたい」、「健やかにくらしたい」、「安全・安心にくらしたい」、「恵まれた教育環境でくらしたい」など、富山の生活の魅力から生まれるモチベーションを地域イメージとして表現したもので、交流人口の拡大や定住・半定住の促進につなげたいと考えています。

県PR誌「富山物語」をはじめ、各種広報・印刷物で使用していくとともに、とやまブランドの推進に関係する団体・企業等にも利用を呼びかけ、官民が一体となって、地域イメージを発信していく予定です。



(お問い合わせ先：富山県知事政策室 とやまブランド担当 TEL 076-444-9605)

## 財団からのお知らせ

### “アイデアロボットフェスタ”開催

[中学生、高校生、高専生によるロボット展]

- ◆期間 平成18年12月16日(土)  
～平成19年1月28日(日)
- ◆会場 富山県教育記念館 1階多目的ギャラリー

県内の中学校、高等学校、高等専門学校の皆さんが製作したアイデア溢れるロボットを展示します。



多くの来場者で賑わった昨年のロボット展

[チャレンジデー]

- ◆期間 平成19年1月13日(土)  
～1月14日(日)
- ◆会場 富山県教育記念館 5階  
大会議室、小会議室  
高志会館 2階 カルチャーホール

世界一の癒しロボット「パロ」開発者の柴田崇徳氏による講演、富山商船高等専門学校 浦風 助教授及び富山県立大学 神谷 講師によるセミナーをはじめ、半日・1日コースのロボットづくりなど、ものづくりへの創造性や思考の仕方、具体的な形への工夫などをロボットづくりに携わっている方から直接学びます。



## TOYAMA FAN CLUB

### お問い合わせ先

#### ■事務局

##### 財団法人 富山県ひとつづくり財団

〒930-0018 富山県富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階

TEL 076-444-2000 / FAX 076-444-2001

E-mail:toyama@t-hito.or.jp <http://www.t-hito.or.jp>

#### ■連絡所

##### 富山県東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階

TEL 03-5212-9030 / FAX 03-5212-9029

##### 富山県大阪事務所

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館3階

TEL 06-6445-2811 / FAX 06-6445-2611

##### 富山県名古屋事務所

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4階

TEL 052-261-4237 / FAX 052-263-7308